

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 スターチャイルド《KSPナーサリー》

発効：平成23年3月24日（平成26年3月23日まで有効）

社団法人神奈川県社会福祉士会

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

フリガナ	スターチャイルド ケーエスピーナーサリー
事業所名 (正式名称を記載)	スターチャイルド《KSP ナーサリー》
事業所種別	保育所
事業所住所 最寄駅	〒213-0012 神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1 KSP西棟1階 田園都市線 溝の口駅下車 バス5分
事業所電話番号	044-820-8331
事業所FAX番号	044-820-8332
事業所代表者名	役職名 施設長 氏 名 出口 明 美
法人名及び 法人代表者名	法 人 名 株式会社みつば 法人代表者氏名 代表取締役社長 古 宮 清 隆
URL	http://www.starchild.jp/
e-mail	
問合せ対応時間	9時00分～18時00分（法人本部TEL045-450-1295）

事業所の概要1

開設年月日	平成20年4月1日
定員数	30名
都市計画法上の用途地域	
建物構造	鉄筋コンクリート造り、10階建 1階部分
面積	敷地面積（ ）㎡ 延床面積（129.26）㎡

事業所の概要2（職員の概要）

総職員数	16名
うち、次の職種に該当する職員数	施設長（常勤 1名） 保育士（常勤 6名：非常勤5名） 栄養士（常勤 1名：非常勤 名） その他（調理員2名、事務員1名）

事業所の概要3（受入・利用可能サービスの概要）

受入年齢	満1歳～小学校就学未満
延長保育の実施	有 備考：
休日保育の実施	無 備考：
一時保育の実施	無 備考：
障害児保育の実施	有 備考：
病後児保育の実施	無 備考：

保育の方針

Positive Sentence：否定語、禁止語は極力使わず、肯定形による前向きなことばがけをします。
 自分を愛する心、お友達を愛する心、生きものや草花を愛する心、を育てます。
 自らの意思で選択し、思いや考えを正しく表現できる力を育てます。
 子どもたち1人ひとりの思いを全力で受け止めます。

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善を要する点）

優れている点・独自に取り組んでいる点：

- スターチャイルドの保育理念に「生きるよろこびの共感」を掲げ、使命に「①豊かな愛情と感性を育む、②あふれる意欲と体力を育む、③やさしい心と思いやりを育む」ことを挙げ、保育に取り組んでいる。
また、Positive Sentence：否定語、禁止語は極力使わず、肯定的な前向きなことばがけをして、子どもたちが自分で考えることができるようにしている。
- KSP(かながわサイエンスパーク)内西棟1階で、1歳児～5歳児30名を対象に保育を行っている。各クラス6名の編成で、少人数のアットホームな雰囲気の中で、きめ細かい保育を実践している。担任に拘らず、職員全体が子どもたち全員に関わり、家族のような雰囲気を醸し出している。
- 保護者には、1日の様子を連絡ノートや口頭で伝え、コミュニケーションを密にとるようにしている。保育園での子どもたちの活動の様子を写真に撮り、その日のうちに玄関に掲示している。また、保護者参加型の行事を年5回行い、交流を深めている。
- 専用の園庭はないが、KSP周辺の広大な公開空地には緑が茂り、午前午後を通して子どもたちは毎日、散歩に出掛けている。水辺ではオタマジャクシやカエルを観察したり、思いきり身体を動かしてのびのびと活動している。散歩は異年齢で自由に出掛けている。
- 異年齢の触れ合いを大切にして、午後は乳児、幼児別に異年齢で過ごすことが多い。小さい子への思いやりの気持ちや大きい子へのあこがれの気持ちが芽生え、お互いが刺激し合う関係を作ることができるように配慮している。
- 月に1回、3～5歳児を中心にクッキングを実施している。2歳児も年の後半から行っている。給食のメニューやサンプルについては、玄関にその日の給食とおやつを展示し、子どもたちや保護者に知らせている。食事のマナーについては、スプーンやお皿の持ち方を保育士が手本になり示している。発達に合わせたお皿を用意し、ワンプレートではなくそれぞれのお皿に盛り付けをしている。陶磁器の食器を使用し、食事時の姿勢にも気を付け、高さの異なる4種類の椅子を用意している。
- 当番活動は1歳から行っている。1～2歳児は友だちの前に立って、自分をアピールできるように保育士がフォローしている。3～5歳児は給食の配膳や野菜の水遣りを行ったり、朝の会では皆の前で、今日の日にちや天気などを発表し、季節の歌を歌っている。帰りの会で保育士が当番の子どもにインタビューして、1日の振り返り発表を行っている。子どもたちは当番が来るのをとても楽しみにしている。
- 週に1回、外国人の先生を招いて英語教室を開催している。3～5歳児はクラス別に30～40分、単語を覚えたり英語の歌を歌っている。1～2歳児にも触れ合いの時間を作っている。活動の成果は、お楽しみ会などで発表している。
- 3～5歳児を対象に、毎週水曜日の午前1時間、体操教室を実施している。その日は体操にふさわしい服装を用意してもらい、雨の日は保育所内で、晴れの日にはKSP内のグラウンドに出かけて行っている。
- 交通機関を使つての園外保育を実施している。園の前からバスに乗って、プールや森林公園、プラネタリウムの見学に出掛けたり、5歳児のお別れ遠足では電車を利用するなど、社会性を深める取り組みを行っている。KSP施設の夏のお祭りには子どもたちが参加し、お祭りの舞台上で踊りを発表している。

評価領域ごとの特記事項		
1	人権への配慮	<p>○園児や保護者に対する適切な言葉遣いや態度については、「保育運営マニュアル」を定め、子どもとの接し方や言葉遣いに注意している。職員会議の場で、常に子どもや保護者への対応について話し合いをしている。</p> <p>○個人情報の保護、守秘義務については、「個人情報管理マニュアル」や「個人情報取り扱い同意書」により、徹底した管理を行っている。「プライバシーマーク」を取得し、職員の携帯するネームホルダーにも示している。</p> <p>○区役所や児童相談所と連携し、子どもの虐待予防や早期発見に努めている。日頃より登園時の子どもの表情などに気を付けている。</p> <p>○実習生には、「実習生受け入れマニュアル」に個人情報の守秘義務を明記している。</p>
2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	<p>○家庭との連絡・情報交換は、「入園のしおり」に手段・方法を明記し、1～2歳児は「連絡ノート」を日々交換し、保護者との連絡をきめ細かくとっている。3歳児以上でも保護者の希望で個人的に「連絡ノート」を用意している家庭がある。少人数の園なので、口頭でのやり取りを十分行っている。</p> <p>○3月に懇談会を行っている。幼児クラス進級前の2歳児は、スムーズに移行できるように10月に個人面談を実施している。個人面談は保護者全員が出席している。</p> <p>○「入園のしおり」に、保護者からの意見、要望、質問などについて常時受け付けることを明記している。保護者とは話しやすい関係を常に心がけ、小さな要望や意見でも、その都度対応している。保護者からの意見、要望は「要望受け付け記録」に記録し、対応している。</p>
3	サービスマネジメントシステムの確立	<p>○苦情への対応は、「苦情・要望への対応」に受付から解決までの手順を明記し、苦情受付体制や第三者委員名を玄関に掲示して、保護者に周知している。「苦情申出書」や「苦情受付簿」、「苦情受付報告書」などの各書式を整備している。</p> <p>○「保健衛生管理のマニュアル」で、室内の環境整備の方法を定め、「危険物管理マニュアル」や「危険物管理チェック表」で危険物の安全点検を行っている。</p> <p>○園児が触れるおもちゃ、タオル、布団などの除菌・消毒、遊具の安全点検については、マニュアルに管理方法を定め、点検実行記録をつけて衛生面・安全面の管理を行っている。</p> <p>○「健康管理マニュアル」に「季節的な感染症の予防と情報収集」を定め、感染症の情報を玄関に掲示している。「園便り」には、季節的な感染症の情報を記載している。園医による月1回の検診の中で、その季節に流行している感染症についての情報提供や指導があり、保育士は情報を共有するようにしている。</p> <p>○防火・防災・防犯対策については、「避難訓練年間計画表」を作成し、月1回避難訓練を行っている。園の避難訓練の他に、KSPビル内での全体合同訓練に年3回参加している。「かながわサイエンスパーク共同防火・防災管理消防計画書」により、KSPビル内での災害時の協力・連携体制が整備されている。</p>
4	地域との交流・連携	<p>○園庭がないため、近隣の広場や公園へ散歩に出掛け、体を十分に動かして遊んでいる。KSP周辺は緑が多く、子どもたちはのびのびと活動している。</p> <p>○地域の子育て支援については、読み聞かせ交流、夕涼み会・運動会・作品展へのお誘い、育児相談を計画している。行事の際には、ポスターなどで案内し、参加を呼び掛けている。</p>

5	運営上の透明性の確保と継続性	<p>○年に2回、上期と下期に分けて、保育士が個別に目標を立てて自己評価を実施している。「個別目標シート」により「自身について、保育について、担当クラスについて、職場の役割について」を確認し、一人ひとりが施設長と面接し、振り返りを行うことで、次期に活かすことができるようにしている。</p> <p>○株式会社みつばのホームページに、みつば直営保育所の案内があり、スターチャイルド《KSPナーサリー》の保育方針、保育時間、保育園の特色などを掲載している。保育理念は玄関の見やすい場所にも掲示し、保護者の理解が得られるようにしている。</p> <p>○「年間行事予定表」に、保護者が参加できる行事を明記している。「園便り」でも案内し、夕涼み会や運動会、お楽しみ会、作品展、懇談会に保護者が参加している。</p>
6	職員の資質向上促進	<p>○職員は採用後から退職するまで、「職員マニュアル」を所持して常に内容を確認している。職員会議においても、「職員マニュアル」の保育理念や職員心得などの内容を確認している。</p> <p>○職員の経験年数や方向性、希望する分野に沿って、研修参加を決定している。年間を通して研修計画を立て、年度末には計画の振り返りを行っている。</p> <p>○職員が外部研修に参加した際には、職員会議において研修報告を行っている。報告書は回覧形式にしており、いつでも閲覧できるようにしている。</p>

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目 1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目 1 全体 （調査確認事項全 80 事項） を通してのサービスの達成状況	100 %
-------------------------------------------------------	--------------

大項目 1 の内容 (概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目 2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項 目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか	<p>①毎月発達記録をつけ、個々の発達にあわせた保育を進めている。</p> <p>②月1回身体測定を行い、成長と一緒に喜び、自分の身体に興味を持つ。</p> <p>③職員会議でクラスや担任を問わず、職員全員が全園児の発達を把握する。</p>	<p>①毎月の発達の記録については、子ども一人ひとりの発達の状況が異なるので、生活や遊びの様子を担当が個人記録に記録していること、職員会議などで一人ひとりの保育の内容を検討していることを、「発達記録」で確認した。</p> <p>②月1回の身体測定については、1～2歳児は連絡ノートに、3～5歳児はシール帳に毎月の測定結果を記入していること、1年間に身長が伸びた分だけテープを切って子どもに渡しているクラスもあることを、「身体測定記録表」や「連絡ノート」、「シール帳」で確認した。</p> <p>③職員全員での全園児の把握については、毎月末に職員会議を行っていること、会議では報告事項や来月に向けての検討・確認を行っていることを、「職員会議録」で確認した。</p>
子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを心もてるようにするためにどのような取り組みをしていますか	<p>①友だちを呼ぶときは「～さん」「～くん」「～ちゃん」と呼び合う。</p> <p>②異年齢児との関わりを経験し、楽しむ。</p> <p>③毎日交代で当番活動を行い、発表した様々なことに責任を持って取り組む心を育てている。</p>	<p>①子どもへの呼びかけ方については、保育運営マニュアルに基づき、「～さん、～くん」などで呼びかけていること、子どもたちは保育士の声かけの様子をよく見ているので注意していることを、「保育運営マニュアル」や保育室でのやりとりの場面で確認した。</p> <p>②異年齢児との関わりについては、午後は乳児、幼児別に異年齢で過ごすことが多いこと、散歩にはほとんど異年齢で出掛けしていることを、「年間指導計画」や子どもたちが散歩に出掛ける様子観察で確認した。</p> <p>③当番活動については、1歳より当番活動を行っていること、1～2歳児は友だちの前に立って、自分をアピールできるようにしていること、3～5歳児は配膳や野菜の水遣りを行っていること、朝の会では皆の前で、今日の日にちや天気などを発表し、季節の歌を歌っていることを、「年間指導計画」や訪問調査時の当番の様子観察で確認した。</p>

項 目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと社会とのかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①交通機関を利用して園外保育を行い、社会性を深める。 ②地域のKSP施設のお祭りに参加している。 ③英語教室を実施し、異文化に触れている。</p>	<p>①交通機関を使つての園外保育については、園の前からバスに乗って、プールや森林公園に出かけていること、5歳児のお別れ遠足では電車を利用するなど、社会性を深める取り組みを行っていることを、「年間指導計画」や「保育日誌」で確認した。 ②地域のお祭りへの参加については、KSP 施設の夏のお祭りに子どもたちが参加し、お祭りの舞台上で踊りを発表していることを、「保育日誌」で確認した。 ③英語教室の取り組みは、週に1回、外国人の先生を招いて英語教室を実施していること、3～5歳児はクラス別に30～40分、単語を覚えたり英語の歌を歌っていること、1～2歳児にも触れ合いの時間を作っていることを、訪問調査当日の英語教室の実施場面で確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①うたやごっこ遊びを取り入れ、自ら表現できる力を育てている。 ②ことば遊びのカードやゲームを遊びのなかに取り入れ、楽しむ。 ③保育士や子ども同士で元気に挨拶を行い、適切なことば使いができる環境をつくっている。</p>	<p>①うたやごっこ遊びの取り組みについては、子どもたちが家族ごっこやおにごっこを行っていること、ごっこ遊びは戸外遊びでも行っていること、乳児、幼児が共通の歌を歌って楽しんでいることを、「年間指導計画」や「保育日誌」で確認した。 ②ことば遊びのカードやゲームについては、5歳児が中心になり、絵本をヒントにして楽しんでいること、「ことわざカード」や「早口ことばカード」、「しょくいくカードゲーム」などを用意していることを、「年間指導計画」やことば遊びで使うカード類で確認した。 ③適切なことば使いができる環境作りについては、保育士が手本になり、「おはよう」や「ありがとう」ではなく、「おはようございます」や「ありがとうございます」と挨拶をしていること、子どもたちには無理には教えないようにしていることを、「保育運営マニュアル」や保育室での言葉掛けの様子観察で確認した。</p>

項 目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①当番活動のなかでインタビューや1日の振り返り発表を行っている。 ②毎日の読み聞かせを行っている。 ③positive sentence 職員は前向きなことばがけを心がけている。</p>	<p>①当番活動でのインタビューや発表については、帰りの会で保育士が当番の子どもに、今日はどんなことをしたか、給食は何だったかインタビューして、1日の振り返り発表を行っていること、子どもたちは当番が来るのをとても楽しみにしていることを、「保育日誌」で確認した。 ②毎日の読み聞かせの取り組みは、一日のプログラムの間や、10月中旬頃より午睡をしない5歳児に、絵本の読み聞かせを行っていること、読み聞かせは頻繁に行っていることを、「保育日誌」や保育室での読み聞かせの様子観察で確認した。 ③職員の前向きなことばがけについては、保育士は前向きな言葉を使っていること、保育士の言葉を子どもたちはよく聞いていること、子ども同士のトラブルの際も否定せず、「どうしたらいい?」「一緒に考えよう」と子どもたちが考えられるようにしていることを、「保育運営マニュアル」で確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①毎朝体操を行う。 ②月毎に季節の歌を取り入れ、朝の会や行事などで歌っている。 ③色鉛筆やペン、クレヨン(パス)を各自(3～5歳児)ロッカーに常備し、いつでも自由に絵が描けるようにしている。</p>	<p>①毎朝の体操の取り組みについては、全フロアを使って、毎朝1～5歳児が体操を行っていること、5歳児が皆の前に出て体操の先生役になっていることを、「保育日誌」で確認した。 ②月毎の季節の歌は、同一法人の3園合同で曲を決めていること、朝の会で皆で歌っていること、保護者へは園便りで伝え、お楽しみ会でも歌っていることを、「年間指導計画」で確認した。 ③色鉛筆やペン、クレヨンについては、園で用意し幼児クラスのロッカーに入れていること、テーブルなどでコーナーを作り自由に絵が描けるようにしていることを、保育室内の幼児クラスのロッカーで確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなで一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①月毎に季節の製作を取り入れている。 ②運動会でのダンス発表。 ③お楽しみ会での表現発表。</p>	<p>①月毎の季節の製作については、1歳児から発達に合わせて、季節に合った製作を行っていること、各クラスで話し合いをして、何を作るか決めていること、お芋掘りの時のツルを使用したりしていることを、「年間指導計画」や「製作指導計画」、保育室内の様子観察で確認した。 ②運動会でのダンス発表については、近くの小学校の体育館を借りて運動会を行っていること、年間の行事で発表するものを決めていることを、「運動会プログラム」で確認した。 ③お楽しみ会での表現発表については、年1回12月に保育室を開放してお楽しみ会を行っていること、保育室内のレイアウトは毎年変えていること、お楽しみ会では英語教室や手遊びで習った日頃の取り組みを発表していることを、「お楽しみ会プログラム」で確認した。</p>

項 目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 天気の良い日は近隣の広場や公園へ散歩にでかけ、体を十分に動かして遊んでいる。 ② 週1回体操教室を行う。(3～5歳児) ③ 絵本にちなんだクッキングを月1回行う。</p>	<p>① 散歩や戸外活動の取り組みについては、天気を見て毎日、戸外に出かけていること、散歩は午前中に行うことが多いが、午後に出かけることもあること、KSP 周辺の公園に出かけることが多いことを、「年間指導計画」や訪問調査時の散歩の様子観察で確認した。 ② 週1回の体操教室については、3～5歳児を対象に、毎週水曜日の午前1時間、体操教室を実施していること、その日は体操にふさわしい服装を用意してもらっていること、雨の日は保育所内で、晴れの日は大庭園に出かけて行っていることを、「保育実施計画」で確認した。 ③ クッキングの取り組みについては、3～5歳児を中心に実施していること、2歳児も年の後半から行っていること、5歳児が食材を買物に行ったり、メニューの名前も絵本にちなんでつけていることを、「クッキング年間計画表」で確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① プラネタリウム見学。 ② 秋のお芋掘りごっこ、遠足。 ③ 朝顔や野菜(トマト、きゅうり、ピーマン)を育てる。</p>	<p>① プラネタリウムの見学については、毎年七夕前に5歳児を対象に実施していること、バスを乗り継ぎ、向ヶ丘遊園の青少年科学館まで見学に行っていることを、「行事計画案」で確認した。 ② お芋掘りごっこについては、同一法人の保育園と合同で3歳児以上が観光農園までお芋掘りに出かけていること、1～2歳児は新聞紙で作ったお芋を砂場にセットし、お芋掘りごっこを楽しんでいることを、「行事計画案」で確認した。 ③ 朝顔や野菜の栽培については、玄関前のスペースを活用して、プランターで朝顔やトマト、きゅうり、ピーマンなどを育てていること、子どもたちが水遣りを行い、収穫した野菜はクッキングや給食で使用していることを、聴き取りや玄関前のスペースの観察で確認した。</p>

項 目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①食育、クッキングを月1回行う。 ②給食メニューを子ども達でもわかりやすくひらがなやかたかなで掲示し、給食のサンプルを展示する。 ③発達段階に見合う方法で個々に排泄の援助を行う。</p>	<p>①クッキングの取り組みについては、3～5歳児を中心に栄養士が内容を考えてクッキングを実施していること、2歳児も年の後半から行っていることを、「年間指導計画」や「クッキング年間計画表」で確認した。 ②給食のメニュー掲示やサンプルの展示については、玄関にその日の給食とおやつを展示していること、メニューの表示はひらがなやかたかなを使用して、子どもたちにわかりやすいように配慮していることを、サンプルの写真や訪問調査時のメニューの掲示・展示で確認した。 ③排泄への取り組みについては、1～2歳児を対象にトイレトレーニングを行っていること、口頭や連絡ノートで家庭での状況を聞いていること、トイレに行くのが嫌にならないように取り組んでいることを、「保育運営マニュアル」で確認した。</p>
<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようになるためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①服の着脱が自分でできるよう1歳児から衣類を自分で選択し、着る。 ②保育士も子ども達と一緒に実食し食事のマナーなど、伝えながら食べている。 ③毎月のお便りを配布し、家庭での理解、協力を深める。</p>	<p>①衣服の着脱の取り組みについては、家庭と連携し、衣類は着替えやすいものを用意してもらい、ロッカーにセットしていること、午睡後には1歳児もロッカーから新しい服を選んでいないこと、5歳児が下の子の着替えを手伝っていることを、「保育指導計画」や訪問調査時の午睡後の様子観察で確認した。 ②食事のマナーについては、スプーンやお皿の持ち方を保育士が手本になり示していること、発達に合わせたお皿を用意していること、プレートではなくそれぞれのお皿に盛り付けをしていること、食事時の姿勢にも気を付け、高さの異なる4種類の椅子を用意していることを、「保育日誌」で確認した。 ③毎月のお便りの配布については、園便りと給食便りを毎月発行し保護者に配布していること、行事に合わせて配布物を用意していることを、「園便り」や訪問調査時の掲示物で確認した。</p>

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項 目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
子どもの豊かな心と身体をはぐむための特徴的な取り組みについて説明してください	①年齢別保育を行うなか異年齢児交流も実施し、思いやる心を育てている。 ②英語教室、体操教室を週1回行い、豊かな心と身体を育てている。 ③季節を通して様々な行事に参加する。	①異年齢交流については、子どもたちが様々なことを学んでいること、年下の子の世話をしたり、上の子の行動を習っていること、保育士が一緒に入って家庭的な雰囲気を作るように努めていることを、「年間指導計画」や保育室での子どもたちの様子観察で確認した。 ②英語教室や体操教室については、それぞれ週1回定期的に実施していること、豊かな心と身体を育てるように取り組んでいることを、訪問調査時の英語教室の実施場面で確認した。 ③季節の様々な行事への参加については、季節に合った様々な行事を計画し、子どもたちが楽しめるように取り組んでいることを、「行事計画」で確認した。
保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください	①SIDS予防のため1歳児は5分間隔の呼吸チェックを行っている。 ②長時間保育では異年齢混合保育を行い、交流を楽しむ。 ③外国籍の保護者に対し、配布物に対して口頭でも説明を行っている。	①午睡時の呼吸チェックについては、1～2歳児を重点的に、午睡時の無呼吸のチェックを5分間隔で実施していること、3歳児以上の子どもも全員、状態をチェックしていることを、「お昼寝チェック」で確認した。 ②長時間保育については、18時以降の延長保育は幼児の保育室を使用して行っていること、家での食事をメインに考え、園では19時以降の長時間保育でも小さめのオニギリやサンドイッチを提供していることを、「延長保育について」で確認した。 ③外国籍の保護者に対しては、両親のどちらかは日本語が理解できるので、対応には特に困っていないこと、口頭での説明では、わかりやすいようにゆっくりと話をしていることを、聴き取りで確認した。
健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください	①川崎市健康委員会の審査による除去食の対応を行う。 ②川崎市健康委員会の審査による投薬の対応を行う。 ③離乳食は子どもの発育に合わせて対応する。	①アレルギーのある子への対応については、除去食の市の審査があり、それに基づいて対応していることを、「除去食審査結果について」で確認した。 ②投薬の対応については、保育園では基本的に投薬は行わないことになっていること、市の審査があり特例として対応していることを、「川崎市健康委員会の審査結果」で確認した。 ③離乳食の取り組みについては、1歳児の半分くらいが対象になっていること、保護者との連絡を密にして、家庭と合わせた内容で対応していることを、「入園のしおり」で確認した。

項 目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
食に関する特徴的な取り組みについて説明してください	①クッキング活動を月1回行う。 ②子ども達が育てた野菜を給食で食べ、収穫への喜びを知る。 ③月1回の職員会議に栄養士も参加し、連携をとる。	①クッキングや食育の取り組みについては、月に1回クッキングを実施していること、食事の場面に栄養士も中に入り子どもたちの様子を確認していること、個人面談で栄養士が質問に答えたり、給食便りにレシピを載せていること、子どもたちの食器は陶器を使用し、落とすと壊れることを知り、物の大切さを学んでいることを、「年間指導計画」や「クッキング年間計画表」、訪問調査時の給食の様子観察で確認した。 ②育てた野菜の給食での使用については、プランターで育てた野菜を給食に使用していること、収穫の喜びを知る機会としていることを、「年間指導計画」で確認した。 ③職員会議には、栄養士も参加し、「調理より」という時間を設けていることを、「職員会議記録」で確認した。
家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください	①保育園での活動の様子をその日に写真で掲示する。 ②保護者参加型の行事を年5回行い、交流を深める。 ③1日の様子を連絡ノートや口頭で伝え、コミュニケーションをとる。	①写真の掲示については、その日の保育園の活動の様子を写真に撮り玄関に掲示していること、掲示している写真は、行事などの実施状況により毎日替えたり週に1回だったりすること、販売用の写真はアルバムを作り用意していることを、訪問調査時に玄関に掲示されている写真で確認した。 ②保護者参加型の行事については、家族の誰かが参加し、ほとんど全部の家族が参加していることを、聴き取りや「年間行事予定」で確認した。 ③家庭とのコミュニケーションについては、1～2歳児は連絡ノートで毎日やりとりをしていること、3歳児以上でも保護者の希望で個人的に連絡ノートを用意している家庭があること、少人数の園なので口頭でのやりとりを十分に行っていることを、「連絡ノート」や「シール帳」で確認した。
地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください	①育児相談を随時行う。 ②園行事へのお誘い。 ③絵本読み聞かせの交流。	①育児相談の実施については、案内を玄関のドアに掲示していること、これまで相談はほとんどなく、入園前の見学の際に相談があり、施設長が対応していることを、聴き取りや玄関の育児相談の掲示で確認した。 ②園行事への参加の呼びかけについては、園の4大行事の案内を自治会のボードに掲示していること、夕涼み会には親子連れの参加があったことを、「ポスター(夕涼み会)」で確認した。 ③絵本の読み聞かせの交流については、2ヶ月に1回、読み聞かせのボランティアが訪れ、絵本読み聞かせの会を開催していること、地域の子育て親子にも参加を呼びかけていることを、「ポスター(絵本読み聞かせのお誘い)」で確認した。